

# 新人登山大会中部ブロック予選会 予報（井原山～雷山山系）

福岡県高体連中部ブロック登山専門部

## 1. 大会山域について

糸島半島は、弥生時代より大陸からの新文化を受容する玄関口としての役割を担っており、中国の歴史書「魏志倭人伝」に伊都国で記述されています。特に、国指定史跡の平原（ひらばる）遺跡から日本最大の銅鏡が出土している。

明治29年に、怡土（いと）と志摩（しま）の2つの郡が合併し、「糸島郡」が誕生し、昭和40年に複数の町と村から形成されていたのが前原町、二丈町、志摩町となり3つの町となった。その後、平成4年には前原町が市制を施行し前原市になり、平成22年に、前原市、二丈町、志摩町が合併し「糸島市」が誕生した。

大会山域である雷山の中腹には742年に開山された千如寺（せんによじ）があり、その中にある大悲王院（だいひおういん）は1752年に黒田継高（つぐたか）公が建立した建物である。境内には県天然記念物である樹齢約400年の大カエデがある。この千如寺からさらに登ったところに雷（いかづち）神社があり、ここには県指定天然記念物である樹齢900年のイチョウ、250年のモミの木、400年以上のイロハカエデ、1000年を越す観音杉がある。

井原（いώρα）山は脊振山脈で脊振山に次ぐ第2位の標高で982.4mある。ふもとには幕営地である瑞梅寺山の家、1976年に管理開始された瑞梅寺ダム、さらに上に登っていくと全長1600m以上の水無鍾乳洞がある。この谷は石灰岩の溪谷となっており、鍾乳洞入口付近にフクロウの形をしている「こうぞう岩」と呼ばれる岩があり、この下から湧水がでていいる。この辺りは7月中旬に咲くオオキツネノカミソリが非常に有名である。尾根を挟んで西側にはアンの滝、現在通行止めになった二段の滝、雷山から下山中に通過する清賀の滝がある。

登山山域の植生は、山頂付近の稜線にはコバノミツバツツジ・ブナ・ヤマボウシ・ツゲ・アカガシ等があり、中腹にはスギやヒノキが植林地帯、自然林はカヤ・ヤブツバキなど点在している。さらにはふもとには竹林がある。山域の林床にはミズヒキ・キンミズヒキ・クマザサ・ヤブミョウガ・ヤマジノホトトギス・リョウメンシダ等の植生が非常に豊かである。

脊振山系は東側は基山（きざん）から西側は十坊山（とんぼやま）まで続く福岡県と佐賀県の境界となっており東西に50km以上と非常に長い距離の山系となる。最高峰である脊振山（1055m）をはじめ今回の山域である井原山・雷山の他に金山（かなやま）・羽金山（はがねやま）は標高900mを越えている。

## 2. 荒天対策について

(1) 荒天対策は次のような場合に実施する。

- ①風雨が激しく全面的に登山行動や幕営が困難なとき。
- ②①に準ずる天候（雷の異常発生、河川の増水など）で稜線や沢筋での行動が困難なとき。
- ③台風の接近や集中豪雨のため、入下山口への経路が通行不能になったときや、そのおそれのあるとき。

### (2) 荒天対策の実施

原則として情報を大会本部で検討し、大会本部から指示する。

(3) 荒天対策は「行動可能な場合」と「行動不可能な場合」に分けて実施する。

①「行動可能な場合」で荒天によって通常の登山行動が困難な場合、規定時間、制限時間、行動形式を変更して行動する。また、登山行動中の天候の激変や落雷等の突発事項の場合は、事前に計画した荒天対策によらない緊急避難を行う可能性もある。

②「行動不可能な場合」は前日までに専門委員で検討し各学校に連絡する。

### 3. 大会コースのルートガイド

**瑞梅寺山の家**を右に曲がり出発する。車道を下っていくと左が瑞梅寺ダム・右がキトク橋の丁字路になる。この区間は民家の集落を早朝に歩くので迷惑をかけないように進んで欲しい。丁字路を右へ曲がり車道を進むと左にキトク橋・正面に駐車場・右に登山口があり右の登山道を進む。登山口にはヤブランの群生があり、林道にはサクラが植樹されている。登山道を進むとスギの植林地帯となり林床にはヤブミョウガ・リョウメンシダがいたる所に自生している。しばらく登山道を進むと左に曲がるように木道を渡るが、日陰で濡れていることが多く、よく滑るので慎重に通過する。さらに進んでいくと左手の沢を渡渉する地点がある。ここも慎重に渡渉し2～3分ほど登ると**広域林道**に出会う。この道脇にはツリフネソウが咲いている。車道を横断し再び沢沿いの登山道をトラバースしながら進むと途中にスギが登山道の足元に倒れているので注意して進む。1つ目の沢を渡渉する。2つ目の渡渉点は橋が架かっている所以て利用して進む。3回目の沢を渡渉したところから滝の音が聞こえ始め、すぐに**アンの滝**に到着する。アンの滝を通過して登山道を進むと淵があるので渡渉して左側から巻いて通過する。そのまま沢沿いにケルンを確認しながら進むとアンの滝分岐に到着し左が水無登山口、右が井原山山頂となっており、右の井原山山頂に進む。登山道をしばらく進むと第一ベンチが見えてきて、ここから左側の斜面をトラバースしながら進む九十九折の急登になる。この辺りからカヤヤヤブツバキ、林床にはカンアオイが点在してくる。九十九折を終えると第二ベンチがある。そのあとも尾根に出るまでは急登がつづく。尾根付近になるとクマザサが登山道付近に生い茂っている。

左側に**水無尾根分岐**、右側に井原山頂案内があり右側に進む。ここから山頂までは緩やかな尾根道になり、タンナサワフタギやヤブツバキ、リョウブ等の自然林がみられ、また、石灰岩もみられる。脊振山脈の尾根道が近づくとコバノミツバツツジの群生もみられる。**瑞梅寺分岐**では左に井原山、右に雷山の分岐となり丁字路を左に進む。クマザサ、コバノミツバツツジに囲まれた急登を滑らないように進んでいくと**井原山**山頂に到着する。(この区間はピストンとなる)

井原山山頂は360度の展望があり北側は糸島市・福岡市、南側は佐賀市そして有明海の先に天気の良い日は雲仙まで見えることもある。東側には三郡山の先に県大会の山城でもある英彦山が見える。山頂からは三瀬峠・古場(こば)・雷山方面と3つのルートがあるので間違えないように雷山へと向かおう。ここからしばらくは尾根を進むこととなる。縦走路瑞梅寺分岐を通過しコバノミツバツツジやツゲのトンネルをくぐり抜け、ブナやアカガシの自然林をみながら歩いていると右側に現在通行禁止となった洗い谷ルートの柵が現れる。そのまま進むと本富士山と書かれたピークを通過する。途中小さなピークがあり手前に巻き道がある。どちらに進んでもよいがピークからは尾根を北へ降りるルート跡があるので間違えないように雷山へ向かう。さらに進むと**富士山**(ふじやま)と書かれたピークに到着する。ここからはスタート地点付近である瑞梅寺ダムが見える。山頂にはツゲ・ススキ・ヤマボウシが特に目立つ。雷山を目指し



渡渉地点は安全な場所を確認する



リョウメンシダ



アノ滝後の淵を左から巻く



井原山からの展望



通行禁止となった洗い谷ルート



て進んでいくと右側に中腹自然歩道分岐があり、さらに進むと左側に古場分岐がある。そのまま尾根を進んでいくと**雷山**に到着する。雷山も展望が開けているが特に西側の羽金山にある標準電波送信所の電波塔がよく見える。

雷山山頂からは草原地帯を経て避難小屋へ進む道もあるが北側の上宮を目指して下山していく。上宮までの区間はブナやツゲなどの自然林があり、自然林の間から福岡市内が見える。上宮が近づいてきたらスギの植林となり木の階段で降りていくと上宮に到着する。

**上宮**の正面はイロハモミジで囲まれている。上宮からは左が雷神社、右が清賀の滝となるので右へ進む。ここからはトラバースしながら3回谷を通過しなければいけない。滑落には十分注意をしてルートを踏み外さないように進む。特に2つ目の谷は支柱が崩れている部分があり鎖で補強してある。うまく鎖を利用して通過しよう。トラバースが終わると尾根を降る。この辺りはアオキが群生している。しばらく歩いていくと清賀の滝が見えてくる。この滝の落差は15mといわれている。**清賀の滝**に到着したらそのまま沢沿いを進むように降りていく。増水して沢が渡渉しにくい場合は、車道の橋を渡るとすぐに右側に沢の登山道へ合流する道があるのでそこを利用する。沢沿いをそのまま歩いていくと右側に防火水槽のフェンスがあり広域林道に合流する。左が雷神社、直進の登山道が千如寺、左が瑞梅寺方面になっているので右に進む。林道の脇にはヨウシュヤマゴボウやタラノキなどが群生している。この林道を進み20分ほど歩くと左側から千如寺からの登山道と合流しすぐに右側に中腹自然歩道へ入る看板があるので見落とさずここから再び登山道に入る。この辺りもスギの植林となっており、この中の登山道を歩いていく。登りきった所に右側から縦走路からの分岐と合流地点がある。そのまま直進し下っていくと沢に合流する。その沢沿いに進むと先程の広域林道と合流しここが**中腹自然歩道登山口**となる。ここで車道を横断して右方向を見ると井原山入口バス停の看板がある。草が多く分かりにくい階段になっているので踏み外さないよう慎重に進む。車道に合流したらそのまま車道を下山していく。この付近は竹林地帯になっており、沢と平行に下ると民家が見えてくる。この辺りは分かれ道が数本あるので間違えないようにゴールである**瑞梅寺山の家**を目指す。ゴール地点はスタート地点と同じ場所となる。



富士山手前の巻き道



上宮通過後のトラバース



十字路の林道を右へ曲がる



井原山入口バス停の看板



瑞梅寺山の家キャンプ場横を通過



左：ヨウシュヤマゴボウ

右：ヤブラン